



三浦半島労福協ニュース

NO. 68

〒238-0006 横須賀市日の出町1-5 ヴェルクよこすか3F 三浦半島地域労働者福祉協議会
発行人：中澤謙介 編集人：許斐正典、篠原恭久

2023年8月29日発行

子どもたちが自由にのびのびと「平和」を表現！ 労福協コラボ企画「平和作品展&親子映画」

三教組と三浦半島労福協コラボ企画、「第35回平和作品展」が8月4日（金）から、8月7日（月）にかけて横須賀三浦教育会館で、「親子映画」が8月5日（土）に横須賀総合高校で、それぞれ開催されました。両イベントを通して、約270名もの家族連れを中心とした来場者が訪れ、「平和」について考える良い機会となりました。

平和作品展

平和作品展は、三浦半島内（横須賀市・逗子市・葉山町・三浦市）の児童・生徒の作品を、横須賀三浦教育会館ホールを会場に展示しています。今年は、1,300名を超える小・中学生、高校生の平和への願いをこめた絵画や迫力のある合同作品の他、川柳・作文・感想文等が展示されました。また、平和に関する書籍を読むスペースもありました。作品を出品した児童・生徒には、参加賞として、主催者と三浦半島労福協連名でスティックのりをプレゼントしました。

また、会場には労福協から「フードバンク」の活動を紹介するコーナーを設けました。多くのご家族がプラカードを読んだり、コースターや冊子「食品のひみつ」を持ち帰ったりするなど、関心を寄せていました。

来場者の感想

- みんな自分の描きたいものが描けていてきれいだなと思った。自分だったらみんなが平和な絵がかきたいな。（小2）
- ぼくは、今日平和作品展を見に来て、戦争体験の作品を見て、特に「原爆の話聞いて」が気になりました。ほかの学年も平和について考えてくれたらいいなと思いました。（小6）
- ニュースで広島での黙祷を見てから来たので、展示してある写真や本であったことが、78年前の今日、今さっき起こったことというのがリアルに感じました。子供の作品を見に来たのですが、子どもにとっても勉強になって良かったです。（保護者）



親子映画

親子映画は、「子どもたちの幸せと平和」を願い、毎年この時期に開催しています。今年は、実写ドラマ「はだしのゲン（前編）」を上映しました。「親子で平和について考える良い機会となった」等、大変好評でした。

来場者の感想

- 日々、私たちがしている生活が当たり前だと思っていたけど、戦争の時代ではご飯を食べる事なども満足にできていないことを心から感じました。毎日毎日元気にふるまう主人公に感動しました。戦争に行きたがる兄と戦争に反対する父とのぶつかり合いも「どちらも分かるな・・・。」と悩まされました。毎日の生活を幸せだと思わないといけな映画でした。現在ウクライナとロシアで実際にあることから、より考えが深まりました。一日一日を大切にしていこうと思いました。（中2）
- 子どもたちに戦争というものがどういったものなのか、日本に何が起き、今の平和があるのかを知ってもらうきっかけの一つになったと思います。今日の映画を家族で振り返り、日々の幸せに感謝して、一日一日を大切に過ごしていきたいと思いました。ありがとうございました。（保護者）



三浦半島労福協・地域連合福祉団体セミナー開催!!

ろうきん・こくみん共済coopより、組合員にとって大切な情報提供!

7月31日(月)18時から、横須賀三浦教育会館2階ホールにて、会場48名、WEB18名の合計66名参加のもと『三浦半島労福協・地域連合共催の労働福祉団体セミナー』を開催しました。

冒頭、中澤会長からは福祉団体が設立された経緯や必要性を再認識し、『つながる・寄り添う・支え合う』の精神のもと設立された労働福祉団体を有効に活用してほしいと挨拶がありました。

その後セミナーをスタートして、ろうきんから価格高騰を続ける住宅購入の際の『住宅ローン基礎講座』などの説明があり、是非とも各組織でも同様のセミナーの開催を訴えました。

次にこくみん共済coopからは多発する自然災害への備えの重要性を東日本大震災や2018年の台風21号の事例を交えて訴えかけ、今



後の南海トラフ地震や首都直下型地震に対して共助の限界と自助の強化の必要性を説明しました。

最後に及川議長から、一生に一回といわれるマイホーム購入について住宅価格高騰による自社での状況に触れ、高額なローン、そして購入後の保証など労働福祉団体の活用をお願いし、セミナーを終了しました。



住重労連のマスクを障がい者・高齢者施設に寄贈!

7月31日(月)に住友重機械労働組合連合会横須賀地方本部より、不織布マスク約4,000枚を頂きました。

今回、寄贈するにあたり、逗子市の社会福祉協議会を20年以上経験し議員となった服部逗子市議会議員と相談し、逗子市にあります3つの高齢者施設へ寄贈することを決定し、8月9日(水)、10時に逗子杜の郷、10時30分に逗子ホームせせらぎ、11時30分に逗子清寿苑を中澤労福協会長、篠原地域連合事務局長、服部逗子市議会議員で訪問し、各施設に1,100~1,200枚を寄贈しました。

寄贈後には各施設と意見交換を行い、人材確保、運営面・金銭面の課題などを聞くことが出来ました。

また、日頃からお付き合いがあります。横須賀市の障がい者施設はやぶさ工房にも8月2日に500枚を寄贈し、頂いた4,000枚全ての寄贈を行うことが出来ました。

障がい者施設、高齢者施設は新型コロナウイルス感染症法が5類になった以降も逆に新型コロナウイルス感染拡大が続いており、今でもマスクは必需品であり、いくつあっても足りないくらいと感謝されました。

三浦半島地域連合・労福協の構成組織でマスク・生活用品・食料品などの備蓄がありましたら、ご連絡を頂けますようお願いいたします。

